

150 SAITAMA 150th ANNIVERSARY
 150年 さいたま、咲いたま。 さいたま、咲いたま。

令和3年度がん教育総合支援事業
がん教育シンポジウム

実践事例発表（小学校）
草加市立八幡小学校の実践
 ～外部講師と連携したがん教育～



埼玉医科大学
 総合医療センター
 儀賀理暁 医師
 【がん専門医】

SAITAMA

Kobaton
 Saitamatch

埼玉県教育局県立学校部保健体育課
 健康教育・学校安全担当 咲間 悟

1

機密性2相当

令和3年度 埼玉県がん教育総合支援事業（がん教育推進計画）（文部科学省委託事業）

背景

- 平成28年12月に改正されたがん対策基本法第23条では、「国及び地方公共団体は、国民が、がんに関する知識及びがん患者に関する理解を深めることができるよう、学校教育及び社会教育におけるがんに関する教育の推進のために必要な施策を講ずるものとする。」というがんに関する教育の推進についての文言が新たに記載された。
- がん対策推進基本計画では、「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。」ことを目標としている。
- 学習指導要領の改訂に伴い、中学校及び高等学校の保健体育科において、がんについても取り扱うこととされ、新学習指導要領に対応したがん教育の実施について検討する必要がある。

・年間約37万人以上の国民ががんで死んでいる。
 ・埼玉県のがん検診受診率が50%未満である。

課題

- がんについての正しい知識やがん患者に対する理解が不十分
- 教材や外部講師を活用した指導の在り方、方法等の充実が必要

そこで、

がん教育に関する計画を作成し、作成した計画に基づき、がん教育に関する多様な取組を実施することにより、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい理解及び命の大切さに対する認識を深める。

がん教育推進連絡協議会

- 新学習指導要領に対応したがん教育に関する計画作成について指導・助言をする。
- （教科、授業展開方法の検討、外部講師の活用体制の整備、関連機関との連携等）
- 取組結果について、成果を検証する。

※がん教育推進連絡協議会に報告された実施結果を前子にまとめ、県内の市町村教育委員会、小・中学校、県立学校等へ配布

【構成委員22名】
 学校関係者、学校医、医療機関関係者、学識経験者、がん経験者、行政関係者等

がん教育指導者研修会

- がん教育を推進していく教職員・外部講師を対象とした「がん教育指導者研修会」を開催し、効果的ながん教育の在り方についての研修を行う。

がん教育授業研究会

- 小学校、中学校及び高等学校において、授業公開による授業モデルの普及及び研究協議における効果的な指導方法についての検討を行う。

健康と命の大切さについて学ぶことを通じて、自らの健康を適切に管理し改善していく資質・能力を育成する。がんに対する正しい知識とがん患者への正しい理解及び命の大切さに対する認識を深める。

2

①企画（教科等横断的な取組）

第6学年

体育科保健領域

- (3) 病気の予防
- (7) 病気の起こり方
- (1) 病原体が主な要因となって起こる病気の予防
- (4) 生活行動が主な要因となって起こる病気の予防

道徳科

- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
- 19 生命の尊さ

総合的な学習の時間
 「健康」（内容のまとめ）
 「がんについて」（小単元）

特別活動 学級活動

- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全よりよい人間関係の形成
- イ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

タイム・ティーチング T・T

教師 外部講師

外部講師と連携したがん教育

3

②打ち合わせ（事前の共通理解）※オンラインコミュニケーションツールの活用

【事前打ち合わせに係わる課題】

- ・電話やメール（ファイル添付）では不十分
- ・時間調整（移動時間含む）が困難
- ・当日の謝金（旅費）と別予算の確保が困難
- ・互いに遠慮して、共通理解が図れない
- ・実施日当日に初めて顔を合わせるため不安
- ・共通理解ができず、講師に任せる形などの理由により、十分な打ち合わせができないまま当日を迎えてしまうことも…

オンラインコミュニケーションツールによる事前打ち合わせ

場所を選ばない 時間や経費の削減（移動不要）
 資料を提示した説明ができる 顔が見える 複数で話せる

とても効果的でした。

共通理解

学校のニーズ ↔ 外部講師の思いや考え

4

③実践（本時の展開）	
導入 (つかむ)	1 事前アンケートの結果から、がんに対するイメージを確認する。 「がん教育の重要性」「がんになる可能性」「生活の質」「イメージ」「身近な人の健康」
	2 本時の課題を知る。「自分と身近な人のためにできることはなんだろう。」
展開 (さぐる・ 見つける)	3 調べたことを発表する。(プレゼンテーション) 「がん患者と家族の思い」「がん検診と早期発見」「がんの治療法」「生活習慣とがん」
	4 外部講師の話を聞く。 ※教師と外部講師(がん専門医)によるT・T(タイム・ティーチング) 「病気について(生活習慣・検診)」「人との関わり(宣告された人の思い・関わり方)」
終末 (決める)	5 「行動決意シート」に書く。 ※「病気について」「人との関わりについて」それぞれについての意思決定。
	6 書いた内容を友達同士で伝え合う。
	7 本時のまとめをする。 児童の振り返り⇒外部講師からのメッセージ⇒教師からのメッセージ

5

③実践-1 事前アンケートの結果からイメージを確認する。

Q. がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。
A. 「そう思う・どちらかといえばそう思う」 **99%**
→この学習をやってよかった!

Q. 自分はがんにならないと思う。
A. 「そう思う・どちらかといえばそう思う」 **35%**
→こう思っていた人が沢山いましたが、「2人に1人ががんにかかる」ことを学びましたね。

Q. がんになっても生活の質を高めることができる。
A. 「どちらかといえばそう思わない・思わない」 **63%**
→本当にがんになった人の生活の質は下がるのかな?

Q. 家族や身近な人が健康であってほしいと思う。
A. 「そう思う・どちらかといえばそう思う」 **100%**
→みんな、家族や身近な人の健康を願っているんだね!じゃあ、自分にできることは?

【自由記述】
A. 「がんは治らない病気で、最悪の場合、死亡する可能性が高い病気だ」「がんになると普通の生活を送るのが難しくなる」など
→これって本当?イメージだけではなく、正しい理解が必要になってきますね。

【前時までの既習事項】
○がんをとりまく状況
・日本人の2人の1人ががんになる。
・死亡原因の1位

6

③実践-2 本時の課題(ねらい)を知る。

本時の課題(ねらい)

自分と身近な人のために
できることはなんだろう?

【目指す子供の姿(ゴールイメージ)の実現に向けて】

○がんについて正しく理解できるようにする
・前時(総合的な学習の時間)までの学習内容の発表、及び外部講師との対話的な活動を通じてがんについて正しく理解するとともに、「病気の予防や望ましい生活習慣の確立」などの実践に向けた意思決定をする。

○健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする
・がんの当事者(患者や周囲の人達)について、外部講師の経験を踏まえた話を聞き、「児童・教師・外部講師」の三者による対話的な学びを通して、子供たちがこれからの生活(人生)において「**自他の健康や命、人との関わりを大切に、共に生きていく態度**」などの実践に向けた意思決定をする。

7

③実践-3 調べたことを発表する。

【児童による発表】
総合的な学習の時間に各班が調べた内容をプレゼンテーションソフトを使用して発表しました。※今回は、代表の4班が発表。

がん患者と家族の思い

がん検診と早期発見

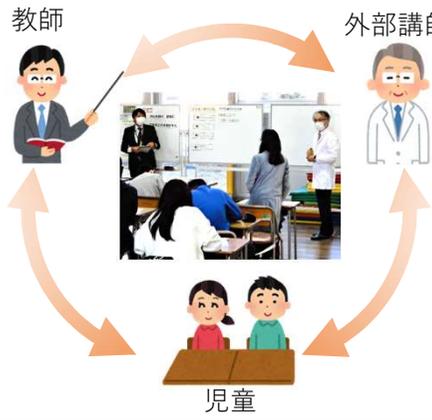
がんの治療法

生活習慣とがん

8

③実践－4 外部講師の話聞く。

**【指導方法の工夫】
「チーム・ティーチング (T・T)」**



○外部講師の経験を踏まえた**具体的な話を聞くことにより**、がんに対する正しい知識、がん患者への理解及び命の大切さに対する認識を深めさせ、**児童に明確な意思決定をさせたい。**

○外部講師による単独指導に比べて、T・Tにより**教師が授業全体を進行**することで、**児童にとって安心感がある。**

○授業**全体の進行は教師が行う**ため、外部講師はメッセージの内容や目の前の子供たちの様子に集中できるので、**外部講師にとって不安が少ない。**

○外部講師と連携しながら授業を進める中で、その都度、**外部講師への追加質問や児童に対する補足説明ができるため、教師にとってねらい(目指す子供の姿)に迫ることができるというメリットがある。**

※児童・教師・外部講師による対話をおとして、三者が互いに学びを深めること(学び合い)につながる。(チーム・ラーニング)

9

③実践－4 病気について(生活習慣・検診)

◎がんを予防するための適切な生活習慣

- ・調べた内容でできそうなこと
- ・大人になってからできること※家族に話す(伝える)ことも大切
- ・がんになる原因(刺激)をできるだけ無くすこと(たばこ・お酒・食事など)※塩分について少し詳しく
- ・免疫が動くための生活習慣のこと
- ・カップラーメンなど、実生活に照らして考える
- ・好きなものを食べてもよい、でも全体(日頃)のバランスをとることが大事だということ
- ・運動も大事だということ



◎がん検診・早期発見

- ・がんの仕組み(初めは自覚症状が出にくい)と早期発見のための検診が大切だということ
- ・外部講師本人と教師のがん検診の受診のこと
- ・検診にかかる費用のこと
- ・検診にかかる時間のこと

◎児童の反応

- ・塩分の摂りすぎは、体に刺激が強いので、気を付けよう
- ・カップラーメンを食べちゃダメじゃなくて、食べてもいいけど、そのあと、野菜を多く摂るようにしたり、少し味付けに気を付けたりするなどバランスが大切なんだ、やってみよう
- ・休み時間の外遊びも大事だから続けよう
- ・検診は、思っていたより値段も安いし、時間もかからないみたいだから、将来は受けてみたいな、親にも教えてあげよう

10

③実践－4 人との関わり(宣告された人の思い・関わり方)

◎がんを宣告された人の思い

- ・なんとも思わない人は少ないこと
- ・現在の医療の状況と治療成績のこと
- ・多くの人が、がんになったことにショックを受けること
- ・前向きに生きている人もたくさんいること
- ・亡くなってしまう方もいること

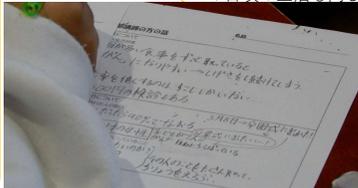
◎ある女性(がん患者)の方の話

30代女性 2児(年長・小6)の母
見つけた時、肺や骨にまで転移しかなり厳しい状況
皆(本人・家族・医療者)で相談
本人の意志を尊重した方針決定
2か月後の卒業(卒業)式が目標
本人と家族のがんばり
目標実現※その時の写真を紹介
「母として、女性として、人としての生き方を貫いたこと」



◎患者さんとの関わりの中で大切にしていること

- ・お届けた女性の話と同様、患者さん本人がどんな自分でありたいかを大切にしながら、一緒に治療方法を考えること
- ・患者さん本人の人生(生き方)であり、本人の意志を尊重して決めていくということ
- ・患者さんがどんな状況でも一人の人として接するのを大切にしていること
- ・がん患者さんだけでなく、皆さん(児童)の日頃の生活も同じだということ



その場で児童に対する発問や反応を求める場面はありませんでしたが、一人ひとりの中では、写真のような学びが生まれていました。

11

③実践－4 外部講師の話聞く。 ※授業の様子(映像)



12

③実践-5 行動決意シートに書く／6 友達同士で伝え合う



行動決意シート 名前 _____

「健康な生活と命の大切さ」～自分と身近な人のために～

今できる自分の行動 → 現在、将来の自分の健康
身近な人の命を守る

わたしが決めた行動（具体的に・実際にできる）

○行動を振り返ろう（実際に行動した・行動していることは？） 月 日

○病気について

- ・バランスの良い食事をする。
- ・できるときは毎日運動する。
- ・身近な人にがん検診をすすめる。
- ・将来、がん検診を積極的に受ける。
- ・知ったことをたくさん教える。
- ・家族と一緒に取り組む。
- ・今から気を付けていく。（特に食事）

○人との関わりについて

- ・自分にできるやり方でその人を支えたい。
- ・病気になった人も色々な事情がある人も「みな同じ人間」として、接していきたい。
- ・本人の気持ちを大事にしていきたい。
- ・がんになってしまったら、家族みんなで支えて、話し合い、決めていく。
- ・自分にできる限りのことをしっかりする。
- ・サポートして、できるだけ心配させない。
- ・いつもどおり接する。

13

③実践-7（本時のまとめをする。）



いろいろなことが大切だということが分かりました。特に、相手の気持ちを考えること。これから自分にできることをたくさん探して、自分にできることで周りの人を支えられるようになりたいと思いました。



皆さんのいろいろな意見がたくさん聞けて、とっても嬉しかったです。皆さんには、これから自分の中にある答えに、時々耳を傾けながら、いろいろなことを学んでいってもらえたら、嬉しいと思います。



私も自分の親を大切にしていきたいです。今、その瞬間を大切にしていきたいと思います。みんなにも長生きしてほしいし、自分や身近な人の健康を大切にできる人、支えてあげられる人になってほしいです。

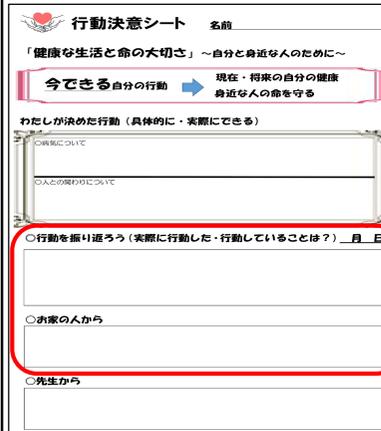
14

④授業実施後の児童の変容

- 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う**
 94.2%（そう思う70.8%・どちらかといえばそう思う23.3%）
 → **100%**（そう思う95.7%・どちらかといえばそう思う4.3%）
- がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う**
 95.0%（そう思う73.3%・どちらかといえばそう思う21.7%）
 → **100%**（そう思う94.0%・どちらかといえばそう思う6.0%）
- がんになっても生活の質を高めることができる**
 36.7%（そう思う22.5%・どちらかといえばそう思う14.2%）
 → **85.5%**（そう思う70.9%・どちらかといえばそう思う14.5%）
- がんになっている人も過ごしやすい世の中になりたい**
 95.8%（そう思う75.8%・どちらかといえばそう思う20.0%）
 → **100%**（そう思う98.3%・どちらかといえばそう思う1.7%）
- がんと健康について、まずは身近な家族から話そうと思う**
 85.0%（そう思う55.8%・どちらかといえばそう思う29.2%）
 → **98.3%**（そう思う94.0%・どちらかといえばそう思う4.3%）

15

⑤事後の様子



行動決意シート 名前 _____

「健康な生活と命の大切さ」～自分と身近な人のために～

今できる自分の行動 → 現在、将来の自分の健康
身近な人の命を守る

わたしが決めた行動（具体的に・実際にできる）

○行動を振り返ろう（実際に行動した・行動していることは？） 月 日

○お家の人から

○先生から

○行動を振り返ろう（実際に行動した・行動していることは？）

- ・バランスの良い食事や毎日の運動など、実行できて良かった。
- ・家族に学んだことを話して早目のがん検診をすすめました。
- ・塩分を控えた食事やランニングを家族と一緒にできた。
- ・お母さんに教えてみて、私自身改めて大切なことがわかりました。これからも予防していきたいです。
- ・カップラーメンのスープは飲まないようにしています。
- ・お菓子の食べ過ぎに注意している。

○お家の人から

- ・子供の話から検診や生活習慣の大切さに改めて気づきました。
- ・子供から教わり、大切なことがわかりました。ありがとう。
- ・家族皆で考え、話し合い、行動することも良い時間でした。
- ・命の大切さを考えながら、できることから行動していこう。
- ・実父のがんで不安になったこと、大切な人をがんで亡くしたことを思い出しました。子供がいろいろと教えてくれ、学んできた内容に驚きました。家族で考え、取り組んでいきます。
- ・健康な体づくりのために、運動することや好き嫌いを食べること、ゲームをしすぎないことなどに取り組みましょう。
- ・食事の様子が変わりましたね、家族みんな健康でいましょう。
- ・周囲の人が普通に接することが患者にとって一番嬉しいということについて、自分の考えを丁寧に話してくれました。

16

⑥ 成果

- ・外部講師と連携した取組（三者による対話的な学び）の1つのモデルとすることができた。外部講師のメッセージを踏まえ、教師が児童の実生活につなげた発問をして考えさせるなど、役割が明確で効果的に学習を進めることができた。
（子供の安心感・外部講師の不安の軽減・本時のねらいに迫る教師の働きかけなど、効果的であった）
- ・外部講師（がん専門医）の専門性を生かした取組になった。当事者からでなければ聞けない話を聞くことで子供たちが夢中になって学習に取り組んでいた。
（「お医者さんの話が分かりやすく納得した」「患者さんに寄り添う気持ちの大切さについて、命と向き合うお医者さんの言葉はとても印象的だった」などの意見が児童からあった）
- ・「病気について（予防）」と「人との関わり」のそれぞれについての意思決定をさせることにより、目指す子供の姿が明確で、ねらいに迫ることができた。
（「正しい理解」に基づく実践につながる内容が多く見られた。また、「健康と命の大切さについて主体的に考える」ことをとおして、がんだけでなく周囲の人に対して、支えたい、サポートしたい、普通に接したいなど、共に生きる態度につながる内容が多く見られた。）
- ・学校の教育活動全体を通じた取組、外部講師と連携した教育活動の方向性（事前打ち合わせによる共通理解など）について、モデルを示すことができた。
（教科等横断的な取組や、オンラインコミュニケーションツールによる打ち合わせに基づく双方の共通理解による効果的な指導の在り方など、新たな取組による成果があった。）

17

⑦ 課題

- ・教科等横断的な取組は効果的であるが、各学校の実情に応じた教育課程への効果的な位置付けなどについて、引き続き研究が必要である。
- ・小学校における実施については、中学校及び高等学校の保健体育科で扱う内容との重複を避けるなど、系統性を踏まえた取組とするための整理が必要である。
- ・本実践では、児童による発表も含めて1時間で扱ったが、主たる学習活動である「外部講師の話を聞く」時間の確保のため、発表は事前に済ませ、その様子を外部講師と共有するなど、学習過程の一層の工夫が必要である。
- ・教師と外部講師のT・Tによる効果は大きかったが、児童が発言（質問や感想など）する場面や、児童同士の対話的な活動の場面をより充実させるための時間配分など、授業展開の工夫が必要である。

18

⑧ 今後のがん教育の一層の推進に向けて

- ・小学校における実践については、各学校において取組可能な時数や中学校・高等学校の学習内容との系統性に鑑み、「がんについての正しい理解」については、「がん博士の『がんについての基礎知識』（文部科学省作成）」を活用するなど、短時間で押さえ、外部講師と連携した取組による「健康や命の大切さを主体的に考える」取組（授業）を重視した実践事例などの研究を進めていく。
- ・がん教育に関わらず、外部講師と連携した教育の一層の充実に向けて、本実践のように学校が主体的に取り組む事例について、研修会等の機会を捉えて、県内に広く周知していく。
- ・引き続き、保健医療部疾病対策課と連携した「外部講師研修会」や、「教職員対象の指導者研修会」及び「授業研究会」への外部講師関係者の参加など、外部講師の人員確保と資質向上に向けた取組の一層の充実を図っていく。

19



20